

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2014～2018

課題番号：26220403

研究課題名(和文) 災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立 東日本大震災を踏まえて

研究課題名(英文) Establishment of Local Historical Materials Studies: Forming Disaster Subculture in the Post-3/11 World

研究代表者

奥村 弘 (OKUMURA, Hiroshi)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：60185551

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 90,850,000円

研究成果の概要(和文)： 阪神・淡路大震災以降の地域歴史資料学研究の蓄積を踏まえ、東日本大震災及びその後の大規模災害被災地での実践的研究が進展した。この成果を踏まえ、隣接諸科学を含む多様な歴史文化関係の研究者コミュニティの連携により、資料保全の実践的方法論と文化財防災体制構築における新たな展開を生み出した。

さらに東日本大震災以降の国内外におけるデジタルアーカイブを含めた災害資料の保存・活用と、地域社会の中で災害記憶を継承していく実践的方法論について国際的視点から検討した。その成果を国際会議等で発信し、地域歴史資料学に関する国際連携の基盤を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科学研究の実践的・方法論的研究から得られた成果が、本研究にて重要な位置にある歴史学分野の主要学会誌等に公表され、地域歴史資料学について歴史学界で高い評価が定着した。また地域歴史資料をめぐる現状と課題について国際会議等で発信したほか、国際シンポ等を主催し、国際的視点にたった国内外の資料保全論の検討につなげるなど、研究の国際的展開と波及において成果を上げた。

これらの本研究グループ全体の成果を、日本各地の自治体・地域住民の資料保全活動ならびに国立文化財機構や人間文化研究機構の事業等に反映させ、多様な歴史文化関係者の連携を促進するとともに、地域歴史資料保全活動の水準を引き上げた。

研究成果の概要(英文)： We have advanced practical research on the disaster areas of the Great East Japan Earthquake and other devastated ones based on progress in Local Historical Materials Studies after the 1995 Hanshin-Awaji Earthquake. Collaborating with a highly diversified community of historians and cultural studies researchers, including those in adjacent sciences, a new development was created in the practical methodology for materials preservation and the construction of a disaster prevention system for cultural assets.

Furthermore, from an international perspective, we examined the preservation and utilization of disaster materials, including digital archives both in Japan and overseas since the 2011 catastrophe, as well as practical methodologies for passing on disaster memories in a local community. Our domestic/international conference presentations have established the basis for international collaboration on Local Historical Materials Studies.

研究分野：人文社会系・歴史学・日本史

キーワード：地域歴史資料学 災害文化 東日本大震災 災害資料 史料保存

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中山間部を中心とする急激な人口減少、都市部での流動化、災害の多発により、日本各地で維持されてきた膨大な地域歴史資料は消失の危機にある。また、近年の地震災害、大規模風水害の続発は、この事態を加速させている。地域歴史資料の保全活用を含めた体系的な学問領域としての地域歴史資料学が生まれてくるのは、阪神・淡路大震災における歴史資料保全活動と、それを基礎とした歴史資料学研究が嚆矢である。それ以降、各地で災害が継起するなか、歴史資料保全活動とそれを支える組織が各地に生まれ、地域文化の基盤となる地域歴史資料の保存活用が、歴史文化関係者の間で全国的な課題として強く認識されるようになった。

そうしたなか、東日本大震災は我々に新たな課題を突きつけた。それは、広域災害、津波災害、放射能被曝等に対応しうる実践的方法をいかに構築するのか、大災害が継起する日本列島において、地域社会が災害を記憶し、災害に対応しうる能力を持つ「災害文化」形成を担いという地域歴史資料学をいかに確立するのか、という2つの課題である。このような課題意識が共有されるなかで、進行中の東日本大震災への対応、そして今後高い確率で起こる海溝型地震等の大災害を想定した実践的方法論的研究のさらなる展開が構想された。

2. 研究の目的

急激な人口減、流動化の中で、日本各地で維持されてきた膨大な地域歴史資料は消失の危機にある。地震災害、大規模風水害の続発は、この事態を加速させている。我々は、科研(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」で、阪神・淡路大震災以来の大災害時に集積されたデータを基本に、地域歴史資料を次世代に引き継ぎ、住民の歴史認識を豊かにする地域歴史資料学構築を進めた。研究途中、東日本大震災が起こり、広域災害、津波、放射能被曝という状況に対応することを迫られた。また、大災害が継起する日本列島の地域社会において、災害を記憶し、災害に強い「災害文化」形成が喫緊の課題となっている。これらに対応しうる地域歴史資料学を従来の成果の上に確立することが研究目的である。

3. 研究の方法

本研究では災害文化を担う地域歴史資料学を確立するために、東日本大震災被災地の実践的研究で蓄積されたデータと、阪神・淡路大震災以来の成果を結合することに焦点を当て研究を進める。

第1に、東日本大震災での実践的な成果を収集・蓄積し、これを現地での調査・ワークショップを含めて集中的に検証するという手法をとる。特に海溝型地震および放射能被曝についてのデータを分析し、広域対応可能な方法論を確立する。

第2に、災害の記憶を次世代に繋ぐ災害資料を地域歴史資料学の中に位置付けるために、阪神・淡路以来の実践的な研究及び東日本大震災の現状を踏まえ新たな方法論を開拓する。そのために、保存科学、災害史研究、歴史系博物館による展示活用研究の成果を地域歴史資料学に結合するための共同研究を展開する。本科研の各研究グループが個別研究を深め、その成果を集約・検討し、フォーラムや国際シンポジウムの開催等を通じて、研究成果を国内外に発信する。また、今後想定しうる海溝型地震や大規模災害への実践的対応策を提示する。

4. 研究成果

(1) 東日本大震災被災地での地域歴史資料学の進展

阪神・淡路大震災以降の地域歴史資料研究の蓄積を踏まえ、東日本大震災で浮き彫りとなった津波・原発災害などの広域複合災害に対して、多様な歴史文化関係の研究者コミュニティの連携による被災歴史資料ならびに災害資料の保全活動と実践的研究が一層進んだ。とくに地域社会の中で多様な形態で膨大に残されてきた未指定文化財・歴史資料について、これまでの所在情報把握の方法論や資料保全の対応論・組織論を踏まえた実践的研究の蓄積を通じて、東日本大震災被災地での地域歴史文化の復興と災害記憶の継承に向けた地域住民との連携による歴史資料学の形成に寄与した。

これらの実践的・方法論的研究を通して得られた諸成果を、代表者・各分担者らが学会等へ積極的に発信し、研究者コミュニティ内での共有化を図り、地域歴史資料学について歴史学界で高い評価が定着した。

(2) 地域歴史資料の保全論の国内的展開

新たな災害における被災歴史資料保全の実践的研究の進展

東日本大震災以降、各地で自然災害が頻発している。本研究では東日本大震災への対応と並行して、2015年関東・東北豪雨、2016年熊本地震、2018年西日本豪雨など大規模災害時の資料保全活動に本研究の中間的な成果を活かした。また、その対応過程で得られた知見については積極的に本研究に組み込むとともに、保存科学研究グループによる技術論研究と結合することで、大規模広域災害時における資料保全対応論の構築をはかった。

とくに2015年9月に発生した関東・東北豪雨災害では、茨城県内をはじめ大規模かつ甚大な被害が生じた。この豪雨災害にあたっては、水損した大量の資料の把握と緊急処置が急務であったが、東日本の各研究者を中心に関係諸団体等と連携し、東日本大震災以降の知見を踏まえた実践的研究を進展させた。本研究の主旨から、当初より東北及び茨城に重点を置いた組織体制をとっていたため、本研究の枠組みと人的・情報ネットワークを活かした迅速な水害対応を

展開し得た。被災歴史資料について、東日本大震災対応から得られた水損資料の真空凍結乾燥法をはじめとする技術的対応を各研究者間の広域連携の中で可能とした点は、大規模水害対応論において大きな意味を持つものであった。

さらに、広域に及ぶ甚大な被害が発生した2018年7月の西日本豪雨災害では、西日本の各研究者らを中心に実践的研究をより進展させ、その対応過程において東日本大震災以降の資料保全対応論を再検討すべき新たな知見を得た。これについては本科研の保存科学研究グループによる技術論研究と結合することで、大規模広域災害時における地域の実情に合わせた資料保全対応論の検討を進めた。

これらの東日本大震災やその後の災害における実践的研究を通じた本研究グループ全体の成果を、国立文化財機構の文化財防災推進事業や人間文化機構の歴史文化資料保全大学・共同利用機関ネットワーク事業などに反映させ、歴史資料保全の新たな展開を生み出した。本研究において整理した現状と課題を踏まえ、2014年度から毎年度開催される「全国史料ネット研究交流集会」に共催し、阪神・淡路大震災以降各地で展開している歴史資料保全活動（資料ネット活動）について全国の研究者・関係者との共有をより深める役割を果たした。

災害資料論・災害史研究の進展と地域歴史資料学との結合

本研究では、大災害の実態を明らかにする災害資料を、被災歴史資料とともに地域歴史資料として位置づけ、「災害文化」形成の基礎として、それらを次世代に継承していくための研究領域の開拓を進めた。

阪神・淡路大震災及び中越地震以来の災害資料保存論の蓄積を踏まえ、東日本大震災で課題となっている津波・原発災害被害地域の災害資料や広域避難の記録などの調査保存に関する実践的・方法論的研究が進展した。また、災害遺構や災害遺物などを含む多様な災害資料を地域社会の中で保全し、それを通して災害記憶の喚起を図っていく方法論、ならびに災害史研究の成果を組み込んだ災害資料の展示活用法について検討した。

神戸大学では阪神・淡路大震災以降の災害資料の収集保存の方法論を、上記の東日本大震災被災地や2016年熊本地震被災地に提供し、実践的研究の展開を支援した。定期的な研究会等を通して被災地間での課題共有と連携基盤の形成を進めるとともに、災害デジタルアーカイブをめぐる国内外の最新の状況を踏まえた災害資料論の検討を進め、地域歴史資料学の国際展開につなげた。

現状の災害に関する災害資料研究は、過去の災害や歴史資料そのものを再度問い直し、災害史研究を進展させた。新潟大学を中心に、阪神・淡路大震災及び中越地震以降の蓄積を踏まえた東日本大震災の災害資料保全の方法論が深められるとともに、災害史研究を組み込むことによって地域社会の形成過程の中に災害を位置づけ、災害の記憶を継承していく地域歴史資料学を深化させた。和歌山・愛媛などでも過去の南海地震の記録や災害碑・災害伝承の調査分析を通して、災害文化形成に向けた研究者間及び市民との多様な交流が深められた。

(3) 地域歴史資料学の国際的展開

グローバル化の展開の中で、歴史文化と災害記憶の継承は日本のみならず世界的課題となっている。本研究では東日本大震災以降の地域歴史資料をとりまく現状と課題について、代表者や各研究者が各種国際学会等にて積極的に発信し、地域歴史資料学への国際的な関心を高める役割を果たした。

本科学研究では研究期間内に2度の国際シンポジウムを開催した。2015年度には歴史資料に関する国際会議「文化財防災体制についての国際比較研究」を神戸・仙台で開催し、文化遺産の保護防災措置が国家的に進むイタリアの事例を学び、文化財防災体制に関する比較研究を通して、その成果を広く発信した。この国際会議で得られた知見は、本研究の資料防災研究及び資料保全論へとフィードバックされた。

2017年度には神戸で国際シンポジウム「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立をめざして」を開催した。本科学研究の前年度までの海外現地調査活動や災害アーカイブ研究、文化財防災の日伊比較研究などを通して得られた知見を踏まえつつ、この国際シンポではアメリカ・イタリア・韓国・台湾などの事例を通して、国内外の歴史資料・文化財の保全体制ならびに東日本大震災以降の世界的動向であるデジタルアーカイブを含めた災害資料論について比較検討した。これらを通して地域歴史資料学の更なる深化を図り、今後の国際連携の基盤を構築した。

(4) 保存科学研究の地域歴史資料学への結合

本研究では保存科学研究グループを中心に、各地での実践的研究を踏まえた広域災害や放射能被曝等に対応しうる技術論の開発を進めるとともに、その技術論を地域歴史資料学に再度結合し、新たな災害対応論の構築をはかった。

東日本大震災やその後の大規模水害において被災資料の安定化処理が長期化するなか、被災資料に発生（再発）するカビの根本的対策が課題化した。これについて保存科学研究グループでは隣接諸科学の研究者と連携し、ガンマ線照射によるカビ抑制方法の検討を進め、一定の有効性を確認した。今後は実用化を視野に入れた研究を継続する予定である。

また、2018年西日本豪雨災害への実践的対応から得られた知見を踏まえ、東日本大震災以降の大規模水害対応論の再検討を図った。東日本大震災以降、大量の水損資料の処置法の一つとして真空凍結乾燥法が広く認知されたが、本研究では地域の実情に応じ、現場での負担軽減を図りつつ、ボランティアなど多様な担い手の参加を可能にする対応論を提起した。

以上の各研究を統合し、「災害文化」形成に資する地域歴史資料学を大きく発展させた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計113件（うち査読付論文 31件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 12
2. 論文標題 地域社会形成史と明治維新	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 講座明治維新	6. 最初と最後の頁 206～236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤大介	4. 巻 848
2. 論文標題 デジタルデータは古文書を救うか 宮城での18年間・個人的経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 74～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 20
2. 論文標題 資料ネット活動の現状と今後 宮城歴史資料保全ネットワークの活動を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城考古学	6. 最初と最後の頁 133～140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 976
2. 論文標題 歴史学がふくしま復興・再生に資するために - 現場での7年間を通して経験し、考えたこと -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 198～205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 31巻2号
2. 論文標題 福島県の文化財をめぐる現状と課題 自治体と歴史・文化団体へのアンケート調査を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 行政社会論集	6. 最初と最後の頁 1～44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 1
2. 論文標題 歴史資料保全活動の意味と可能性を問い続ける ふくしま歴史資料保存ネットワークの活動を通じて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「生存」の歴史と復興の現在	6. 最初と最後の頁 30～54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井哲哉	4. 巻 30
2. 論文標題 原子力災害被災地におけるアーカイブ事業の一考察 MLA連携の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 MUSEUM STUDY 明治大学学芸員養成課程紀要	6. 最初と最後の頁 211～218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村昌司	4. 巻 84
2. 論文標題 近代日本における多数決の導入 明治初年地方民会を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 62～80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村昌司	4. 巻 817
2. 論文標題 公論世界と政党・名望家	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 13～20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 4
2. 論文標題 『播磨国風土記』研究班 仲野安雄の『淡路常磐草』と関連史料群	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひょうご歴史研究室紀要	6. 最初と最後の頁 3～10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 821
2. 論文標題 大化期の王権構造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 17～27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下正和	4. 巻 25
2. 論文標題 被災古文書の応急処置	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 かびと生活	6. 最初と最後の頁 13～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木和子	4. 巻 4
2. 論文標題 災害を記録し、未来へ伝える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域づくりの基礎知識（災害から一人ひとりを守る）	6. 最初と最後の頁 239～239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今津勝紀	4. 巻 878
2. 論文標題 日本古代の籍帳制度と社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 10～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 226
2. 論文標題 遍路をめぐる三つの肖像 近世後期の四国遍路からみた民衆世界	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 2～39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 825
2. 論文標題 近世後期の焼畑と村落構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 23～37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 62
2. 論文標題 近世祖谷山と名に関する基礎的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阿波学会紀要	6. 最初と最後の頁 195～204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 -
2. 論文標題 大坂蔵屋敷と渡海統制 近世前期の徳島藩と四国遍路	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世巨大都市の社会構造と史料	6. 最初と最後の頁 52～69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光・高嶋賢二・岡本佑弥	4. 巻 4
2. 論文標題 伊方町で発見された愛媛県最古の四国遍路日記	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 58～63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川圭太・天野真志	4. 巻 89
2. 論文標題 広島県立文書館での西日本豪雨被災資料の保全協力	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史料ネットNEWS LETTER	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 89
2. 論文標題 西日本豪雨災害における支援と広域連携への展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史料ネットNEWS LETTER	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 89
2. 論文標題 西日本豪雨における愛媛県の資料保全活動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史料ネットNEWS LETTER	6. 最初と最後の頁 2~3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 33
2. 論文標題 西日本豪雨における愛媛県の資料保全活動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛媛資料ネット会報	6. 最初と最後の頁 1~4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多仁照廣	4. 巻 51
2. 論文標題 惣の「若衆」と村の「若者仲間」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 11~38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣貴志	4. 巻 286
2. 論文標題 牛から読み解く時代と社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和牛	6. 最初と最後の頁 51～52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 -
2. 論文標題 大規模自然災害時の歴史研究者と大学の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史を未来につなぐ 「3・11からの歴史学」の射程	6. 最初と最後の頁 70～87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 -
2. 論文標題 ふくしまの経験と歴史学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史を未来につなぐ 「3.11からの歴史学」の射程	6. 最初と最後の頁 25～39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 24巻9号
2. 論文標題 文化財としての古文書、アーカイブズとしての歴史資料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 38～43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島浩	4. 巻 22
2. 論文標題 歴史系博物館の可能性 国立歴史民俗博物館での経験から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 市大日本史	6. 最初と最後の頁 1～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井哲哉	4. 巻 114巻3号
2. 論文標題 図書館の被災から学ぶこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書館雑誌	6. 最初と最後の頁 125～127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢田俊文	4. 巻 78
2. 論文標題 明治期長岡における大橋新太郎の教科書・学校用品販売	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟史学	6. 最初と最後の頁 39～54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢田俊文	4. 巻 12
2. 論文標題 明治25年台風と岡山県上道郡の被害	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 災害・復興と資料	6. 最初と最後の頁 1～6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今津勝紀	4. 巻 71
2. 論文標題 日本古代における生存と救済の問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 118 ~ 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 655
2. 論文標題 三田藩廃藩と福沢諭吉・岩倉具視：華士族再編構想としての「学族」論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 135 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 965
2. 論文標題 2017年度歴史学研究会大会報告批判 (特設部会)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究会	6. 最初と最後の頁 53 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 814
2. 論文標題 「曝涼」に学ぶ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 92 ~ 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島浩	4. 巻 12
2. 論文標題 ミュージアムと未来をつくる ミュージアムの果たす役割と可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Newsletter【噴火湾文化】	6. 最初と最後の頁 3～5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 388
2. 論文標題 蔵の資料論 歴史を伝えることの楽しさ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 101～106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 23
2. 論文標題 スペイン・サンティアゴ巡礼と四国遍路	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 今治史談	6. 最初と最後の頁 7～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 389
2. 論文標題 四国遍路の成立と発展 四国と阿波の求心力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 15～19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 80
2. 論文標題 瀬戸内祭礼の系譜	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化愛媛	6. 最初と最後の頁 22～25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木和子	4. 巻 771
2. 論文標題 「震災・まちのアーカイブ」の活動から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 We learn	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 828
2. 論文標題 書評・森下徹著『近世都市の労働社会』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 107～109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 387
2. 論文標題 鳴門史学会の活動について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 89～92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢田俊文	4. 巻 15
2. 論文標題 1855年安政江戸地震と1856年安政台風の被害数 武蔵葛西領・武蔵多摩地域・武蔵川崎領	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 資料学研究	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 955
2. 論文標題 地域歴史文化拠点としての大学の重要性 災害が続く日本列島の中での取り組みから	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 40-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 19
2. 論文標題 被災史料保全から地域歴史遺産の共有へ 阪神・淡路大震災二〇年から考える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 市大日本史	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 2
2. 論文標題 記紀・風土記にみる交通	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本古代の交通・交流・情報	6. 最初と最後の頁 2-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 26
2. 論文標題 「仙台市史」が語る仙台の歴史像	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 市史せんだい	6. 最初と最後の頁 30-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 7巻3号
2. 論文標題 歴史に見る災害と安全	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 環境と安全	6. 最初と最後の頁 231-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 2016年6月号
2. 論文標題 福島県の歴史・文化遺産をめぐる現状と課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 財界ふくしま	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 794
2. 論文標題 歴史資料の保全・活用と地域社会 福島県での歴史資料保全活動を通じて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 34-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 81
2. 論文標題 関東・東北豪雨災害 史料レスキュー私記(一)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史料ネット News Letter	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 82
2. 論文標題 関東・東北豪雨災害 史料レスキュー私記(二)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史料ネット News Letter	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 825
2. 論文標題 関東・東北豪雨被災資料の救済・保全活動	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井哲哉	4. 巻 20
2. 論文標題 原子力災害被災地における地域資料保全の現状と課題 福島県双葉町の事例から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 明治大学図書館紀要 図書の譜	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 添田仁	4. 巻 31
2. 論文標題 過疎化する地域の文化遺産 茨城史料ネットの活動を通して	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史学協会年報	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 添田仁	4. 巻 40
2. 論文標題 関東・東北豪雨の水損文書に刻まれた治水の景観 猪瀬太右衛門家と「惣囲堤」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 利根川文化研究	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下正和	4. 巻 -
2. 論文標題 兵庫県丹波市内での民間所在史料の保存と活用について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会変容と民間アーカイブズ	6. 最初と最後の頁 267-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下正和・内田俊秀・吉原大志・竹本敬市・藤木透・多仁照廣	4. 巻 5
2. 論文標題 身近な文化財を災害と日常の滅失から守るために	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 翰苑	6. 最初と最後の頁 7-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下正和	4. 巻 -
2. 論文標題 地名研究の最前線	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 播磨国風土記：はりま1300年の源流をたどる	6. 最初と最後の頁 178-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今津勝紀	4. 巻 -
2. 論文標題 播磨国風土記の成立とその時代	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 播磨国風土記：はりま1300年の源流をたどる	6. 最初と最後の頁 26-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 7
2. 論文標題 近世徳島藩における紙専売制とその展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 徳島県立文書館研究紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 814
2. 論文標題 三並家文書にみる伊予東部の徴祖法	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 62-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 胡光	4. 巻 -
2. 論文標題 中世・近世の城から近代の公園へ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 城下町と日本人の心性	6. 最初と最後の頁 397-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣貴志	4. 巻 52
2. 論文標題 史学・経済史学の研究動向	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 年報村落社会研究	6. 最初と最後の頁 244-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 11
2. 論文標題 都市災害の記憶の共振とその歴史化 阪神・淡路大震災と東日本大震災から考える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 海港都市研究	6. 最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 783
2. 論文標題 日本社会において地域歴史資料を未来につなぐことの意味	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 21
2. 論文標題 歴史資料の保全と活用 大規模災害と歴史学	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 岩波講座日本歴史	6. 最初と最後の頁 273-299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市澤哲	4. 巻 -
2. 論文標題 歴史資料をめぐる「よそ者」と「当事者」 専門家的知性と市民的知性	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 過去を伝える、今を遺す	6. 最初と最後の頁 220-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 124-5
2. 論文標題 王権論・支配構造論、地域 (2014年の歴史学会 回顧と展望 (日本・古代))	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 39-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 786
2. 論文標題 国家形成期の王権と地域社会 瀬戸内沿岸・北部九州を中心に	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 20-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 -
2. 論文標題 穴穂部王の権益と拠点 石上・佐保・三輪	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本古代のみやこを探る	6. 最初と最後の頁 343-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 2
2. 論文標題 記紀・風土記伝承が語る出雲と葛城	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 古代出雲ゼミナール	6. 最初と最後の頁 103-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 -
2. 論文標題 播磨国風土記にみるサトとムラ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 考古学からみた播磨国風土記	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木和子	4. 巻 2
2. 論文標題 "おわん"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人と防災未来センター震災資料集 暮らしのなかの震災資料	6. 最初と最後の頁 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井健太郎、前田拓人、飯沼卓史、蝦名裕一、菅原大助、今村文彦、平川新	4. 巻 51
2. 論文標題 組み合わせ最適化手法を利用した歴史津波の波源推定法 1611年慶長奥州地震の事例	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 東北地域災害科学研究	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 -
2. 論文標題 地震・津波に関する研究と災害科学研究のあり方	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地殻災害の軽減と学術・教育	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 935
2. 論文標題 福島県の資料保全の現場から 4年間の経験をもとに	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 1
2. 論文標題 公文書館への道 東日本大震災からの省察	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 常陸大宮の記録と記憶	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 222
2. 論文標題 東日本大震災 被災資料を保全する取り組み	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 81
2. 論文標題 関東・東北豪雨災害 資料レスキュー私記	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史料ネットNEWS LETTER	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島浩	4. 巻 11
2. 論文標題 「古物(古器旧物)」から「文化財」へ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 講座明治維新	6. 最初と最後の頁 29-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村昌司	4. 巻 286
2. 論文標題 「災害史研究の前進」を考えるー本誌284号特集を読んで	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 77-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 45
2. 論文標題 二〇一四年八月の台風災害における「歴史資料保全ネットワーク・徳島」の活動	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 史窓	6. 最初と最後の頁 136-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今津勝紀	4. 巻 786
2. 論文標題 日本古代地域史研究の新視点 空間分析と生態学的アプローチ	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今津勝紀	4. 巻 1
2. 論文標題 税の貢進 貢調脚夫の往還と古代社会	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本古代の交通・交流・情報	6. 最初と最後の頁 59-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水本有香	4. 巻 7
2. 論文標題 神戸大学関連震災資料の現状 20年を越えて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 災害・復興と資料	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 924
2. 論文標題 被災歴史資料と災害資料の保存から歴史研究へ 地域の過去と未来をつなぐために	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 204-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 247
2. 論文標題 明治地方自治制における「生存権」と地域社会の位置づけについて	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 252-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 -
2. 論文標題 大災害から歴史資料を守る - 歴史資料ネットワークの活動 -	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 アーカイブ・ボランティア	6. 最初と最後の頁 7-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 -
2. 論文標題 資料ネット	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 これからの文化財防災 災害への備え	6. 最初と最後の頁 129-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村弘	4. 巻 929
2. 論文標題 記憶を歴史として継承する場の広がりとは歴史研究者の役割 阪神・淡路大震災20年、東日本大震災4年の中で考える	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 39-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 770
2. 論文標題 古代播磨の地域社会構造 『播磨国風土記』を中心に	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 54-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 72
2. 論文標題 王宮からみた倭王権の成立過程	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 明日への文化財	6. 最初と最後の頁 7-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 48
2. 論文標題 王名朝妻とその分布	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 史聚	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 -
2. 論文標題 難波と仏教 蘇我氏・ミヤケ・百済系渡来集団	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 難波宮と都城制	6. 最初と最後の頁 280-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 -
2. 論文標題 文献史料からみた長舎と官衙	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 第17回古代官衙・集落研究会報告書 長舎と官衙の建物配置	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市晃	4. 巻 -
2. 論文標題 住吉信仰の古層	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 続日本紀と古代社会	6. 最初と最後の頁 299-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 924
2. 論文標題 地域の史料と向き合う - フィールドワークと郷土を愛すること	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 180-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 -
2. 論文標題 10年目の歴史資料保全	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 災害を超えて 宮城における歴史資料保全	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野真志	4. 巻 -
2. 論文標題 ボランティア活動の全国的展開 資料保全ネットワークの活動	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト安定化処理	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 27-1
2. 論文標題 歴史資料保全活動の3年、そして未来	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 行政社会論集	6. 最初と最後の頁 151-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部浩一	4. 巻 1028
2. 論文標題 福島県の歴史・文化遺産をめぐって	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 2014
2. 論文標題 被災資料と歴史教育,そして歴史研究へ 茨城での取り組みから	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 198-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢田俊文	4. 巻 6
2. 論文標題 自然災害の発生頻度と被害規模 越後長岡藩領を事例として	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 災害・復興と資料	6. 最初と最後の頁 15-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下正和	4. 巻 -
2. 論文標題 襖の下張りからわかる地域の歴史	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 たつの史研究	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下正和	4. 巻 114
2. 論文標題 襖下張り文書の保全と活用 - 市民ボランティアとともに -	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 地域史研究	6. 最初と最後の頁 141-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下正和	4. 巻 -
2. 論文標題 自然石に刻まれた防災への思い - 阪神大水害記念碑	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 神戸謎解き散歩	6. 最初と最後の頁 263-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣貴志	4. 巻 49
2. 論文標題 家畜預託慣行からみる近代日本の畜産史 - 畜産の生活保障機能と家畜所有観念の変容 -	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 2-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田正明	4. 巻 625
2. 論文標題 二〇一一年九月の紀伊半島大水害時における資料レスキュー活動とその後の取り組み	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 52-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田正明	4. 巻 21
2. 論文標題 和歌山県域に残る地震津波関係資料	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 和歌山県立博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計132件（うち招待講演 69件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 吉賀夏子・只木進一・伊藤昭弘
2. 発表標題 小城藩日記データベースの構築
3. 学会等名 情報処理学会 第117回人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 歴史学がふくしま復興・再生に資するために 現場での7年間を通して経験し、考えたこと
3. 学会等名 2018年度歴史学研究会大会特設部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板垣貴志
2. 発表標題 農業機械がもたらしたもののコメント 日本畜産史研究の視点から
3. 学会等名 日本村落研究学会 関西・東海地区共催研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 徳島における歴史の保全活動と地域史研究
3. 学会等名 第40回文化財保存修復学会大会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 及川規・松井敏也・芳賀文絵・森谷朱・天野真志・松下正和・安田容子・伏見拓朗
2. 発表標題 水損資料の災害種別・処置法別の揮発成分特性について
3. 学会等名 第40回文化財保存修復学会大会（ポスター発表）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下正和・西川大介・安田容子・天野真志
2. 発表標題 洪水被災古文書の臭気成分に関する研究
3. 学会等名 第40回文化財保存修復学会大会（ポスター発表）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 浦手形にみる海難・風水害
3. 学会等名 神戸史談会6月例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤健・佐藤大介・柴山明寛
2. 発表標題 地域に根差した防災教育のための地震史料のアーカイブ化
3. 学会等名 日本安全教育学会 第19回横浜大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田正明
2. 発表標題 和歌山市寂光院の文化財緊急調査について
3. 学会等名 シンポジウム「近代の文化遺産を守る」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 歴史文化を活かしたまちづくり 住民主体の地域調べ活動
3. 学会等名 関西建築保存活用サミット第7回「失われた建築の記憶保存・継承活動」検討会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 "Memory" preservation activity of disaster areas and its significance: From Hanshin Awaji Earthquake to the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 The 9th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium "Open Science, Evolving Societies: New Horizons For EU Japan Research"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 三田智子『近世身分社会の村落構造』に学ぶ 村落論の立場から
3. 学会等名 部落問題研究者全国集会・歴史部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢田俊文
2. 発表標題 前近代における災害史研究の方法 地震・台風
3. 学会等名 新潟史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢田俊文
2. 発表標題 災害史研究と複合広域災害・資料保全
3. 学会等名 第5回全国史料ネット研究交流集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 原子力災害の被災自治体における資料レスキューから災害アーカイブズの構築へ 福島県富岡町・大熊町・双葉町の取組
3. 学会等名 第5回全国史料ネット研究交流集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Sato
2. 発表標題 Lessons from after the Great East Japan Earthquake of 2011
3. 学会等名 UNESCO Global Policy Forum on Preservation of Documentary Heritage for Disaster Risk Reduction and Management（招待講演） （国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三村昌司
2. 発表標題 新潟県古志郡金内嘉十郎と明治初期の「衆議」
3. 学会等名 明治維新史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 未指定文化財の被災調査と保護方法
3. 学会等名 愛媛県博物館協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 大規模災害から館蔵資料・民間所在資料を守る
3. 学会等名 大阪自治体史連絡協議会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 “Memory” preservation activity of disaster areas and its significance : From Hanshin Awaji Earthquake to the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 Kansai Resilience Forum 2019（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 全国史料ネットの取組み 大学との連携
3. 学会等名 日本博物館協会平成30年度協議会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 全国へ広がった史料ネットの活動 1995年阪神・淡路大震災から2018年自然災害へ
3. 学会等名 公開フォーラム「被災地と史料をつなぐ 歴史資料の被災状況と保存技術の共有 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 国府叢書の歴史的背景
3. 学会等名 今治史談会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和・天野真志・内田俊秀・藤田和久・酒井浩一・古田雅一
2. 発表標題 ガンマ線照射による天然岩絵具への影響に関する研究
3. 学会等名 第41回文化財保存修復学会大会（ポスター発表）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 及川規・芳賀文絵・森谷朱・松井敏也・松下正和・天野真志・安田容子
2. 発表標題 乾燥処理した水損資料の揮発成分特性について 課題と対策
3. 学会等名 第41回文化財保存修復学会大会（口頭報告）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野真志・吉川圭太・加藤 明恵・西向宏介・下向井祐子
2. 発表標題 西日本豪雨で水損被害を受けた文書資料乾燥法の検討 広島県における大量の紙資料乾燥法の実践事例
3. 学会等名 第41回文化財保存修復学会大会（ポスター発表）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Sato, Kamiyama Machiko Hiroki Takakura, Atsushi Fujisawa, Toshiaki Kimura, J.F. Morris
2. 発表標題 Preservation of Cultural Heritages as a form of Disaster Relief
3. 学会等名 2019 CIDOC annual conference, ICOM2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 極度の状況変化を予測する 過去の災害資料を活用した自主防災活動への支援
3. 学会等名 エッジネクスト「復興プロセスを振り返って考える未来のレジリエンス」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 被災家屋における文化財汚染の実態
3. 学会等名 日本防菌防黴学会第46回年次大会シンポジウム5（環境微生物制御）：住環境における微生物対策（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 Regional historical heritage:ensuring that the historical culture of regional societies continues in the future
3. 学会等名 The 10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium "Open Science,Evolving Societies:New Horizons For EU Japan Research"（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 Handling to damaged materials
3. 学会等名 The 10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposium Open interactive Workshop: Toward A Holistic Approach to Cultural Heritage Research : Challenges & Opportunities（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー
3. 学会等名 日本建築士会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古田雅一・Nguyen Thi Thuy Linh・松下正和・天野真志・内田俊秀・酒井浩一・藤田和久・吉川圭太
2. 発表標題 水損和紙資料（古文書）に発生したカビの放射線殺菌に関する基礎的検討
3. 学会等名 第54回日本食品照射研究協議会研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 大震災の記憶を歴史として引き継ぐために
3. 学会等名 神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室第8回シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 2019年台風19号被害と福島県での資料保全活動
3. 学会等名 第6回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 On the History of the Formation of Kobe as City
3. 学会等名 国際ワークショップ「交差する海港都市 神戸、ポーツマス、その歴史と可能性」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 地域歴史遺産の可能性：地域歴史学興地域歴史資料的守護
3. 学会等名 フォーラム「負の歴史遺産・現在の歴史意識と博物館」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 地域の記憶継承と街づくり 震災資料保存活用から考える
3. 学会等名 第25回土木学会地球環境シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 地域歴史遺産としての歴史資料-阪神・淡路大震災後22年の被災歴史資料保存の歩みから考える-
3. 学会等名 第11回資料保存シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 災害に強い文化と地域歴史遺産継承のための大学間ネットワークとその国際的展開
3. 学会等名 神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室第6回シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市澤哲
2. 発表標題 公共圏における歴史学 / 公共圏をつくり出す歴史学
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会7月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 ふくしまの未来へ歴史をつなぐために 行政・市民と専門機関・大学の連携に向けた試み
3. 学会等名 シンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える 歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久留島浩
2. 発表標題 地域の歴史を自分たちのものへ - 学校と博物館・自治体史編さん -
3. 学会等名 第5回地域史惣寄合
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 蔵の資料論 歴史を伝えることの楽しさ
3. 学会等名 地方史研究協議会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木和子
2. 発表標題 未来につなぐ大震災の教訓
3. 学会等名 第18回地域防災フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松下正和・天野真志・内田俊秀
2. 発表標題 飽和水蒸気加熱による汚損古文書の脱臭
3. 学会等名 第39回文化財保存修復学会ポスター発表
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松下正和・天野真志・内田俊秀・藤田和久・酒井浩一・吉川圭太・古田雅一
2. 発表標題 和紙に発生したカビの放射線殺菌に関する研究
3. 学会等名 第39回文化財保存修復学会セッション 口頭報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 兵庫県佐用町における浸水シミュレーションの文化財防災への活用と課題
3. 学会等名 第12回地域歴史資料学研究会「日伊の文化財情報システムに関する研究会」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天野真志・小林健一郎・松下正和・河野未央・松岡弘之・吉川圭太・内田俊秀・藤木透
2. 発表標題 兵庫県佐用町における浸水シミュレーションの文化財防災への活用
3. 学会等名 第39回文化財保存修復学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板垣貴志
2. 発表標題 矢田貝家文書を活用した実践的な日本近現代史研究 住民参加型調査の可能性
3. 学会等名 島根大学法文学部山陰研究センターシンポジウム「地域とつながる人文学の挑戦」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 東日本大震災後の地域歴史資料保全活動の展開 福島県での取り組みを例に
3. 学会等名 国際シンポジウム「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立をめざして」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 地域歴史資料保全を取り巻く課題と可能性 東日本大震災を踏まえて
3. 学会等名 国際シンポジウム「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立をめざして」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久留島浩
2. 発表標題 地域社会の歴史・文化・自然資源を自分たちのものに
3. 学会等名 第4回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 『地力』と地域社会 徳島大会を振り返って
3. 学会等名 地方史研究協議会・第68回(徳島)大会総括例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田俊秀
2. 発表標題 災害と博物館 文化財防災ネットワークについて
3. 学会等名 日本博物館協会平成29年度研究協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 東日本大震災と史料保存ネットワーク
3. 学会等名 シンポジウム「歴史をつなぐ、人をつなぐ 旧気仙郡における被災史料保全活動」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 国府叢書の歴史的背景 加藤家文書にみる今治の歴史
3. 学会等名 国府叢書公開事業報告会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 記録資料のアーカイブと組織化
3. 学会等名 シンポジウム「図書館情報学専門職養成史の再検討」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内田俊秀
2. 発表標題 被災文化財の劣化および対策の現状
3. 学会等名 公益財団法人人体質研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 古文書と村役場の公文書から見えてきた砂川の歴史
3. 学会等名 多摩郷土誌フェア関連講演会「砂川の文書研究の可能性」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 歴史文化遺産を守り伝えるために 博物館・大学・学会の役割
3. 学会等名 愛媛県博物館関係職員研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市澤哲
2. 発表標題 14世紀の内乱と赤松氏の台頭
3. 学会等名 シンポジウム「赤松氏研究の新展開」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 文書にみる南海地震からの“復興”
3. 学会等名 南海地震史料調査委員会調査報告会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 添田仁
2. 発表標題 関東・東北豪雨の水損文書に刻まれた治水史
3. 学会等名 シンポジウム「災害史研究と資料保存」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 矢田俊文
2. 発表標題 安政2年江戸地震と安政3年台風
3. 学会等名 シンポジウム「災害史研究と資料保存」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三村昌司
2. 発表標題 東京足立の災害史と郷土史 安政江戸地震を中心に
3. 学会等名 シンポジウム「災害史研究と資料保存」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三村昌司
2. 発表標題 地域歴史資料の保全と地域住民のかかわり 兵庫県三木市の事例を中心に
3. 学会等名 第12回静岡歴史教育研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 熊本地震を考える
3. 学会等名 独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 被災した史料の救出・保全
3. 学会等名 群馬県地域文化研究協議会「歴史文化遺産の保存と活用を考えるシンポジウム」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 市澤哲
2. 発表標題 資料管理から公共歴史学を考える
3. 学会等名 九州歴史科学研究会シンポジウム「資料と公共性」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古市晃
2. 発表標題 『播磨国風土記』からみた倭王権の地域編成
3. 学会等名 公開シンポジウム「『播磨国風土記』研究の現代的意義」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 水損和紙資料(古文書)に発生したカビの放射線殺菌に関する基礎的検討
3. 学会等名 地域連携研究機構・放射線研究センター平成27年度共同利用報告会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 常総市における公文書等の水損被害レスキュー現場から 「歴史的に重要な公文書等を残す」とは、どういう仕事か
3. 学会等名 平成28年度市町村公文書管理担当者研修会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 歴史から災害を読み取る
3. 学会等名 日本応用地質学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 三田藩廃藩と福沢諭吉・岩倉具視 華土族再編構想として「学族」論
3. 学会等名 日本史研究会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 福島から図書館の地域資料を見直す
3. 学会等名 福島県南高等学校図書館研究会研究協議会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古市晃
2. 発表標題 播磨国風土記からみた古代播磨と倭王権 紀伊・津守との関係を中心に
3. 学会等名 「播磨国風土記の世界」第1回講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古市晃
2. 発表標題 葛城と出雲
3. 学会等名 出雲国シンポジウム「古代出雲とヤマト王権」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 歴史的に重要な公文書等を残すこと 茨城県の被災地における取り組みから
3. 学会等名 東京都公文書館・特別区協議会共催セミナー「公文書を守り、伝え、活かす」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 立ち直る力 歴史にみる災害と復興
3. 学会等名 農業農村工学会大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hiroshi Okumura
2. 発表標題 “Memory” preservation activity of disaster areas and its significance : From Hanshin-Awaji Earthquake to the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 国際考古学会議第8回京都大会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 宮城県における民間所在資料の災害対応
3. 学会等名 文化財保存支援機構平成28年度「文化財の危機管理セミナー」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 東日本大震災5年 被災歴史資料保存の現状と課題を阪神・淡路大震災から考える
3. 学会等名 第16回地域防災フォーラム「災害復興～未来のための生活再建支援」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 天野真志・吉原大志・内田俊秀・甲斐由香里・芳賀文絵・田井東浩平
2. 発表標題 地域歴史資料の防災ネットワーク構築の手法としての「文化財防災意見交換会」
3. 学会等名 第38回文化財保存修復学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 恩田 怜・白井 哲哉・大原 司・吉田 右子
2. 発表標題 個人文書群の目録編成に関する研究 小野増平文書と馬場重徳文書の比較を通して
3. 学会等名 情報メディア学会第15回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥村 弘
2. 発表標題 被災者と連携する震災資料収集体制について
3. 学会等名 第14回地域防災フォーラム「復興まちづくりと地域創生～岩手大学×神戸大学連携フォーラム～」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村 弘
2. 発表標題 自然災害における地域歴史遺産保全活動の役割 地域社会の再建の中で考える
3. 学会等名 第201回神戸大学RCUSSオープンゼミナール(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村 弘
2. 発表標題 日本における自然災害と地域歴史遺産保全の最前線
3. 学会等名 第3回上海大学・大阪市立大学国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 歴史の中の地域コミュニティ 戦中、戦後、阪神・淡路大震災から考える
3. 学会等名 戦後70年記念事業コミュニティフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 天野真志
2. 発表標題 「ボランティア」から学ぶ歴史資料保全 東日本大震災の取り組みから
3. 学会等名 公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 未来へ伝える文化財防災
3. 学会等名 文化財保存修復学会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 歴史から読み取る災害情報
3. 学会等名 日本情報経営学会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 佐藤大介
2. 発表標題 「災害『前』の所在確認調査」は史料を救うのか 日本・宮城県での活動から
3. 学会等名 文化財防災体制についての国際比較研究（仙台会議）（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 文化財レスキューの概要（被災家屋と歴史資料の保全）
3. 学会等名 平成27年度ヘリテージマネージャー育成講習会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 歴史資料の保全・活用と地域社会
3. 学会等名 歴史科学協議会第49回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 東日本大震災から丸5年経った福島と史料ネット
3. 学会等名 第2回全国史料ネット研究交流集会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久留島浩
2. 発表標題 博物館や大学における「歴史資料」の保全と活用をめぐる現状と課題
3. 学会等名 文化財防災体制についての国際比較研究（神戸会議）（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 添田仁
2. 発表標題 被災した文化遺産の保全と地域の再生 茨城史料ネットの活動を中心に
3. 学会等名 茨城県図書館協会大学図書館部会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 添田仁
2. 発表標題 関東・東北豪雨水害 水損した文化遺産の救出と保全
3. 学会等名 第2回全国史料ネット研究交流集会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 白井哲哉
2. 発表標題 関東・東北豪雨水害 水損した常総市役所行政文書の救出、保全、復旧活動
3. 学会等名 第2回全国史料ネット研究交流集会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 天野真志、内田俊秀、吉原大志、竹原万雄、吉川圭太
2. 発表標題 地域歴史資料の防災・減災対策と史資料ネットワークの役割 宮崎県・静岡県における文化財防災意見交換会
3. 学会等名 文化財保存修復学会第37回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田俊秀
2. 発表標題 阪神・淡路大震災と文化財
3. 学会等名 京都国立博物館主催「文化財を災害から守る」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 今津勝紀
2. 発表標題 播磨国風土記の成立とその時代
3. 学会等名 播磨国風土記1300年：風土記からたどる播磨の源流(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 今津勝紀
2. 発表標題 吉備真備の思想と軍略
3. 学会等名 姫路市歴史講座(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 今津勝紀
2. 発表標題 史料ネット運動と地域史研究
3. 学会等名 平成27年度中国四国地区文書館職員等連絡協議会及び市町村職員研修会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 前田正明
2. 発表標題 和歌山県における津波被害想定地域を対象とした文化遺産所在確認調査について
3. 学会等名 文化財防災体制についての国際比較研究（神戸会議）（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 地域の歴史遺産を守り伝えること 徳島史料ネットの活動から
3. 学会等名 講座・石碑に学ぶ松茂の歴史（第5回）（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 愛媛資料ネットの活動と防災への活用
3. 学会等名 第2回全国史料ネット研究交流集会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林准士
2. 発表標題 島根県における地域史料をめぐる現状と保存問題
3. 学会等名 日本歴史学協会シンポジウム
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 復興過程の大学の地域連携 - 阪神淡路での歴史分野からの示唆 -
3. 学会等名 岩手大学第9回地域防災フォーラム「未来への復興まちづくり～岩手大学×神戸大学連携フォーラム～」(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 地域歴史遺産を活かした大学と公共図書館との連携の可能性を探る
3. 学会等名 阪神地区公共図書館協議会研究集会(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 歴史資料ネットワークの歴史資料保全活動の20年
3. 学会等名 兵庫県文化財保護条例制定50周年フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 歴史資料ネットワークの活動から
3. 学会等名 東京文化財研究所シンポジウム「これからの文化財防災 災害への備え」(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 1995年阪神・淡路大震災への対応3 歴史資料ネットワークの活動
3. 学会等名 独立行政法人国立文化財機構アソシエイトフェロー研修(招待講演)
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 地域歴史遺産保全活用における大学の地域連携活動 神戸大学人文学研究科地域連携センターの事例から
3. 学会等名 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなでまもるミュージアム」第3回全体会議(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 学と博物館の連携 歴史資料ネットワークと神戸大学人文学研究科地域連携センターの活動から
3. 学会等名 日本博物館協会研究協議会(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 史料ネットの20年と地域歴史文化
3. 学会等名 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥村弘
2. 発表標題 大災害の記憶と研究を伝えていく大学の役割 - 阪神・淡路大震災20年、東日本大震災4年の中で考える
3. 学会等名 第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム被災地大学間シンポジウム「住民主体の災害復興と大学の役割」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 市澤哲
2. 発表標題 歴史資料をめぐる「よそ者」と「当事者」 - 専門家的知性と市民的知性
3. 学会等名 史学会創立125周年記念リレーシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 古市晃
2. 発表標題 積山洋氏『古代の都城と東アジア 大極殿と難波京』をめぐって
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会7月例会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 古市晃
2. 発表標題 行基と神仏習合、東大寺
3. 学会等名 第11回東大寺要録研究会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 古市晃
2. 発表標題 風土記に探る播磨の古墳時代
3. 学会等名 第16回播磨考古学研究集会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 東日本大震災と資料保全
3. 学会等名 日本科学史学会生物学史分科会「科学史・医学史とアーカイブズ」（招待講演）
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 歴史に見る街道と地域 関山街道と奥州街道
3. 学会等名 とうほく街道会議第10回交流会関山街道フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 歴史から読み取る災害情報
3. 学会等名 大学ICT推進協議会大会（招待講演）
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 福島県における文化財レスキューと文化財のはたす役割
3. 学会等名 文化財保存全国協議会第45回奈良大会（招待講演）
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 文書資料保全の経緯と課題
3. 学会等名 懇話会ふくしま再生と歴史・文化遺産2015
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 阿部浩一
2. 発表標題 ふくしま歴史資料保存ネットワークの活動
3. 学会等名 朝日カルチャー福島フォーラム「歴史から見つめ直す「生存」の場」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 内田俊秀、他
2. 発表標題 文化財保存修復学会災害対策調査部会の活動を振り返る
3. 学会等名 文化財保存修復学会第36回大会
4. 発表年 2014年

1. 発表者名 内田俊秀
2. 発表標題 被災文化財の復興 2009年イタリア・ラクイラの事例に学ぶ
3. 学会等名 日本伝統文化文化学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 胡光
2. 発表標題 愛媛資料ネットの誕生と活動
3. 学会等名 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 板垣貴志
2. 発表標題 牛と農村の近代史 - 民間所在資料の可能性と地域史の実践 -
3. 学会等名 山陰民俗学会
4. 発表年 2014年

〔図書〕 計44件

1. 著者名 佐藤昇・神戸大学文学部史学講座編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 173
3. 書名 歴史の見方・考え方	

1. 著者名 胡光・柴田昌児・中川未来他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 愛媛大学	5. 総ページ数 380
3. 書名 平成30年7月豪雨愛媛大学災害調査団報告書	

1. 著者名 松下正和	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道立文書館	5. 総ページ数 27
3. 書名 水ぬれ資料を救おう - 被災資料の救出と日頃の備え - 2018 (平成30) 年度文書等保存利用研修会記録	

1. 著者名 松下正和・泉田邦彦・天野真志・井上拓巳・西村慎太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 蕃山房	5. 総ページ数 206
3. 書名 大字誌ふるさと請戸	

1. 著者名 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・丹波市教育委員会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸大学大学院人文学研究科	5. 総ページ数 87
3. 書名 ふるさと丹波の歴史を読む	

1. 著者名 町田哲	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 544
3. 書名 和泉市の歴史7テーマ叙述編 「和泉市の近世」	

1. 著者名 ふくしま歴史資料保存ネットワーク編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 蕃山坊	5. 総ページ数 48
3. 書名 ふくしまの未来へつなぐ、伝える シンポジウム記録集2018	

1. 著者名 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸大学大学院人文学研究科	5. 総ページ数 139
3. 書名 阪神・淡路大震災を撮る 大木本美通追悼写真集	

1. 著者名 矢田俊文・長岡市立中央図書館文書資料室編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新潟大学人文学部附置地域文化連携センター	5. 総ページ数 53
3. 書名 現代災害史研究と史料保存 長岡市災害復興文庫・写真帳『災害記録 長岡市』を中心に	

1. 著者名 佐藤孝之・三村昌司編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 近世・近現代 文書の保存・管理の歴史	

1. 著者名 白井哲哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 231
3. 書名 災害アーカイブ 資料の救出から地域への還元まで	

1. 著者名 胡光・大本敬久・高嶋賢二他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大洲市教育委員会	5. 総ページ数 280
3. 書名 大洲八幡神社祭礼総合調査報告書	

1. 著者名 奥村弘監修著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸市	5. 総ページ数 1162
3. 書名 新修神戸市史 生活文化編	

1. 著者名 胡光・大本敬久他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 愛媛県歴史文化博物館	5. 総ページ数 136
3. 書名 四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー	

1. 著者名 第4回全国史料ネット研究交流集会実行委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 立行政法人国立文化財機構 文化財防災ネットワーク推進室	5. 総ページ数 112
3. 書名 文化財防災ネットワーク推進事業 地域の文化財防災に関する研究集会報告書I「第4回全国史料ネット研究交流集会」	

1. 著者名 奥村弘編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸大学大学院人文学研究科	5. 総ページ数 41
3. 書名 被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会報告書 第8回(2018年度)	

1. 著者名 奥村弘他編（市澤哲、佐々木和子、古市晃ほか執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神戸大学出版会	5. 総ページ数 282
3. 書名 地域歴史遺産と現代社会	

1. 著者名 歴史学研究会編（矢田俊文、奥村弘、高橋修ほか執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 311
3. 書名 現代歴史学の成果と課題 第4次-3 歴史実践の現在	

1. 著者名 一般財団法人住吉学園・住吉歴史資料館編（奥村弘・佐々木和子共同執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 一般財団法人住吉学園・住吉歴史資料館	5. 総ページ数 125
3. 書名 阪神・淡路大震災資料集 住吉の記憶「住吉住之江区と専念寺」	

1. 著者名 阿部浩一（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ふくしま歴史資料保存ネットワーク	5. 総ページ数 55
3. 書名 「ふくしまの未来へつなぐ、伝える」シンポジウム記録集	

1. 著者名 中村元、飯島康夫、矢田俊文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新潟大学人文学部附置地域文化連携センター	5. 総ページ数 94
3. 書名 木村家の蚕糸業 養蚕・蚕種・製糸	

1. 著者名 胡光・岩槻邦男・松浦晃一郎・五十嵐敬喜ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ブックエンド	5. 総ページ数 174
3. 書名 回遊型巡礼の道 四国遍路を世界遺産に	

1. 著者名 胡光・武田和昭・長井健・石岡ひとみ・今村賢司・高嶋賢二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター	5. 総ページ数 154
3. 書名 四国番外霊場久妙寺総合調査報告書	

1. 著者名 板垣貴志・野本瑠美・田中則雄・昌子喜信・会下和宏・林淳一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 今井出版	5. 総ページ数 112
3. 書名 地域とつながる人文学の挑戦 - 山陰の文学・歴史学・考古学研究から考える -	

1. 著者名 閩賀のあゆみ編集委員会（板垣貴志共同執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 兵庫県宍粟市一宮町閩賀自治会	5. 総ページ数 147
3. 書名 記録と記憶 を未来につなぐ 閩賀のあゆみ	

1. 著者名 一般財団法人住吉学園住吉歴史資料館編（奥村弘・佐々木和子他共同執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 一般財団法人住吉学園住吉歴史資料館	5. 総ページ数 115
3. 書名 阪神・淡路大震災資料集 住吉の記憶「住吉西区と阿弥陀寺」	

1. 著者名 富岡町・福島大学・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 富岡町・福島大学・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター	5. 総ページ数 118
3. 書名 ふるさとを想う まもる つなぐ～地域の大学と町役場の試み～	

1. 著者名 白井哲哉監修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 久喜市教育委員会	5. 総ページ数 59
3. 書名 歴史資料でよむ久喜市ゆかりの人物ブックレット2 静御前の伝承	

1. 著者名 胡光	4. 発行年 2017年
2. 出版社 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター	5. 総ページ数 180
3. 書名 四国霊場第五十一番札所石手寺総合調査報告書	

1. 著者名 白井哲哉・須田努編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 394
3. 書名 地域の記録と記憶を問い直す 武州山の根地域の19世紀	

1. 著者名 松下正和	4. 発行年 2016年
2. 出版社 姫路大学	5. 総ページ数 64
3. 書名 播磨の災害史 地震を中心に	

1. 著者名 神戸大学震災復興支援プラットフォーム編	4. 発行年 2015年
2. 出版社 ミネルヴァ書店	5. 総ページ数 294
3. 書名 震災復興学 阪神・淡路20年の歩みと東日本大震災の教訓	

1. 著者名 奥村弘編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 神戸大学大学院人文学研究科	5. 総ページ数 45
3. 書名 第5回被災地図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会報告書	

1. 著者名 奥村弘・内田俊秀・天野真志編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 クバプロ	5. 総ページ数 122
3. 書名 文化財防災体制についての国際比較研究報告書	

1. 著者名 平川新編著	4. 発行年 2015年
2. 出版社 清文堂	5. 総ページ数 253
3. 書名 通説を見直す 16～19世紀の日本	

1. 著者名 矢田俊文・長岡市立中央図書館文書資料室	4. 発行年 2016年
2. 出版社 新潟大学災害・復興科学研究所被災者支援研究グループ	5. 総ページ数 83
3. 書名 東日本大震災と災害史研究・史料保存 長岡市災害復興文庫を中心に	

1. 著者名 久留島浩編	4. 発行年 2015年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 392
3. 書名 描かれた行列：武士・異国・祭礼	

1. 著者名 久留島浩監修	4. 発行年 2015年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 209
3. 書名 ドイツと日本をつなぐもの 日独修好150年の歴史（展示図録）	

1. 著者名 茨城大学人文学部編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 茨城大学人文学部	5. 総ページ数 54
3. 書名 自然災害に学ぶ 茨城の歴史 被災の記憶と教訓を未来へ	

1. 著者名 一般財団法人住吉学園住吉歴史資料館編（奥村弘・佐々木和子他共同執筆）	4. 発行年 2015年
2. 出版社 一般財団法人住吉学園住吉歴史資料館	5. 総ページ数 105
3. 書名 阪神・淡路大震災資料集 住吉の記憶「住中と水」	

1. 著者名 矢田俊文、中村元、卜部厚志、他	4. 発行年 2015年
2. 出版社 新潟大学災害・復興研究所危機管理・災害復興分野、新潟大学附属図書館	5. 総ページ数 70
3. 書名 新潟県の歴史地震 新潟地震五 年中越地震一 年	

1. 著者名 胡光	4. 発行年 2015年
2. 出版社 愛媛大学法文学部日本史研究室	5. 総ページ数 150
3. 書名 四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書(1)	

1. 著者名 多仁照廣(校閲)	4. 発行年 2014年
2. 出版社 若狭路文化研究会	5. 総ページ数 363
3. 書名 水戸天狗党敦賀関係史料	

1. 著者名 和歌山県立博物館(前田正明)編	4. 発行年 2015年
2. 出版社 和歌山県立博物館施設活性化事業実行員会	5. 総ページ数 16
3. 書名 先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」Webページ
<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~chiiki/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平川 新 (HIRAKAWA Arata) (90142900)	宮城学院女子大学・一般教育部・学長 (31307)	
研究分担者	阿部 浩一 (ABE Koichi) (70599498)	福島大学・行政政策学類・教授 (11601)	
研究分担者	高橋 修 (TAKAHASHI Osamu) (40334007)	茨城大学・人文社会科学部・教授 (12101)	
研究分担者	白井 哲哉 (SHIRAI Tetsuya) (70568211)	筑波大学・図書館情報メディア系・教授 (12102)	
研究分担者	久留島 浩 (KURUSHIMA Hiroshi) (30161772)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・館長 (62501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	天野 真志 (AMANO Masashi) (60583317)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	三村 昌司 (MIMURA Shoji) (40525929)	防衛大学校（総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群）・人文社会科学群・准教授 (82723)	
研究分担者	矢田 俊文 (YATA Toshihumi) (40200521)	新潟大学・人文社会科学系・フェロー (13101)	
研究分担者	内田 俊秀 (UCHIDA Toshihide) (30132822)	京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師 (34319)	
研究分担者	市澤 哲 (ICHIZAWA Tetsu) (30251862)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	佐々木 和子 (SASAKI Kazuko) (20437437)	神戸大学・地域連携推進室・特命准教授 (14501)	
研究分担者	古市 晃 (FURUICHI Akira) (00344375)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	松下 正和 (MATSUSHITA Masakazu) (70379329)	神戸大学・地域連携推進室・特命准教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今津 勝紀 (IMAZU Katsunori) (20269971)	岡山大学・社会文化科学研究科・教授 (15301)	
研究分担者	胡 光 (EBESU Hikaru) (50612644)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	
研究分担者	町田 哲 (MACHIDA Tetsu) (60380135)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (16102)	
研究分担者	小林 准士 (KOBAYASHI Junji) (80294354)	島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授 (15201)	
研究分担者	板垣 貴志 (ITAGAKI Takashi) (80588385)	島根大学・学術研究院人文社会科学系・准教授 (15201)	
研究分担者	伊藤 昭弘 (ITO Akihiro) (20423494)	佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・准教授 (17201)	